

関東大震災から80年

当時の様子を物語る貴重な資料「震災絵はがき」

今年で関東大震災から80年を迎える。もし、今も父が生きていたら、どんな思いで当時を振り返るだろうか。

1906年生まれの父・市三郎は、当時、浅草橋周辺（浅草区浅草福井町）のある帽子問屋に住み込みで働いていたが、17歳になった1923年、関東大震災に遭遇した。

「いつもの地震とは違う。建物全体、壁、床はまるで大波のように揺れ、棚のものは頭上に落ち、外に出ようとしても立つことができない。やっとの思いで外に脱出したら、向かい側の店の屋根瓦がドドドッと、まるで雪崩のごとく地面に落ちてきた」

父は揺れが収まったあと、火事が心配になって再び店に戻り三階の物干し台に駆け上がった。今とは違い、高いビルはなく四方が見渡せたが、すでに日本橋方面からはもうもうと煙が上がっていた。午後2時近くになると、日本橋三越方面の火災はますます勢いを増し、当初、避難先に考えていた本所被服廠方面もトグロを巻いた物凄い火の渦に飲み込まれようとしていた。

夜8時ごろには、ついに火の手が近くまで押し寄せて来た。父たちはあるだけのバケツに食料、味噌、醤油を入れ、ヤカン、包丁などの台所用品を持ち出した。そして大旦那を先頭にして、店に残った全員をロープでつなぎ、御徒町、上野池之端方面へと避難した。

3日目の朝には、食料がとうとう底をついた。どの店も売り切れで何ものなかったが、幸いある店でうどん粉が買えたので、味噌汁スイトンをつくって食べた。それがどんなにうまかったことか。

4日目になり、街が落ち着きを取り戻したところで、父は灰燼と化した街を歩き回った。そこで見た光景は、まさにここに紹介している「震災絵はがき」そのものだったという。

こうした父の体験談は、子どものころからなんとなく聞いてはいたが、それに興味をもち、特に震災関係の絵はがき、写真、新聞、雑誌、本、震災地図などを本格的に集めるようになったのは、1955年に宇都宮から上京して御茶ノ水にあった中央大学に通うようになってからである。

絵はがきには文章とはまた違った魅力がある。

庶民から見た当時の世相を時間を越えた「生き証人」として、ありのまま私たちに語りかけてくれる。

「震災絵はがき」は、大火の焼け跡の片づけもまだ済まないうちから各所で出回り、実際よく売れたようだ。マスメディアの発達した今日と違い、新聞情報だけが頼りであった当時、鮮明な写真が使われている絵はがきは、自分自身で「首都崩壊」を確かめることができる数少ない手段だったのであろう。

ここで使われている写真がいつ誰によって撮影されたのかはわかっていない。版元もまさしかりである。おそらく、街の写真家はもちろん、それこそプロ・アマを問わず撮りまくり、辛うじて焼け残った印刷機と職人によって、つくられたのであろう。カバー袋はガリ版刷り、価格は8枚1組20銭位（当時牛丼が10銭）であったようだ。

後日、みだりに人心不安をかきたてるとの理由で当局から発売禁止になってからは、裏通りなどで売値が何倍かに跳ね上がって取引されていたという。庶民たちは密かに売られたものを秘蔵していたようだ。

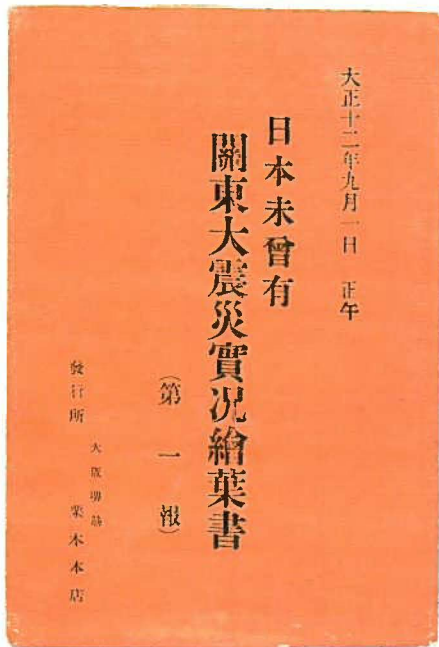
次第に震災絵はがきは、全国の大都市でも発行され、“おみやげ”としても売られようになり、さらに立派な画報や写真集も発行されるようになった。

私の所蔵する絵はがきは、『絵はがきが語る関東大震災』として、フォトライターの木村松夫さんの協力を得てまとめられ、1990年に東京の柘植書房社から豪華写真本として発刊されている。

この本がきっかけとなって東京都庁や江戸東京博物館に私の所蔵物の一部が展示されたこともある。また、明治大学史、千代田区史、NHKテレビなどでも20世紀回顧の映像として利用されている。

学生時代からの趣味がこのようなかたちで注目されるとは思いもよらなかったが、今では自分のコレクションを通して社会に貢献できることに大きな喜びを感じている。

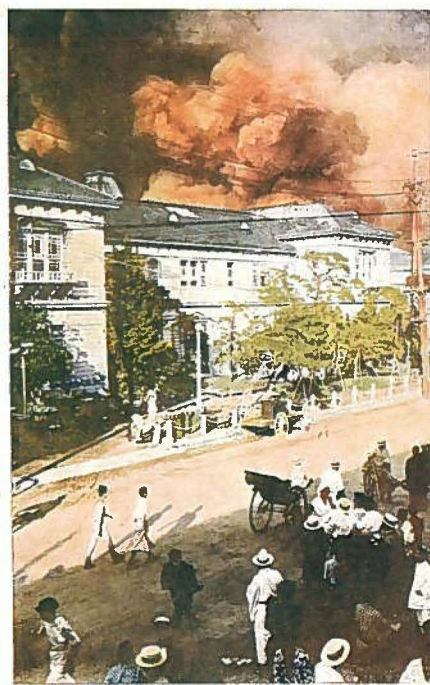
石井敏夫（いしい・としお 宇都宮市在住）



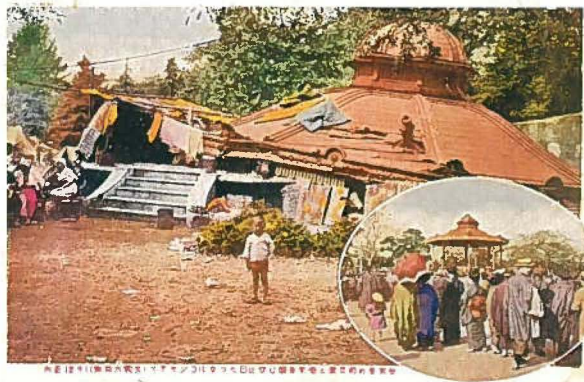
絵はがきが納められていた封筒



数寄屋橋付近



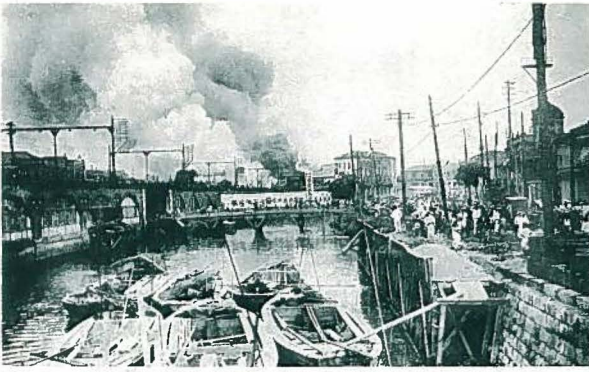
有楽町・東電本社付近



ヘチャンコになった日比谷公園音楽堂と震災前の音楽堂



呉服橋周辺の惨状



しずみ町駅裏の中込住り：橋新が事（災震大東期）

新橋より有楽町方面をのぞむ



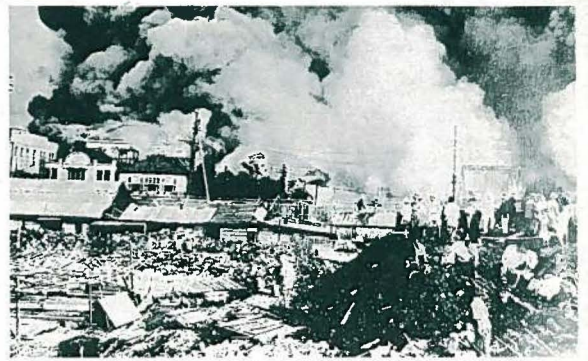
大正12年1月、関東大震災、帝國ホテル附近の大火

帝国ホテル付近



築地地、地割らつからる大亀裂

築地の大亀裂



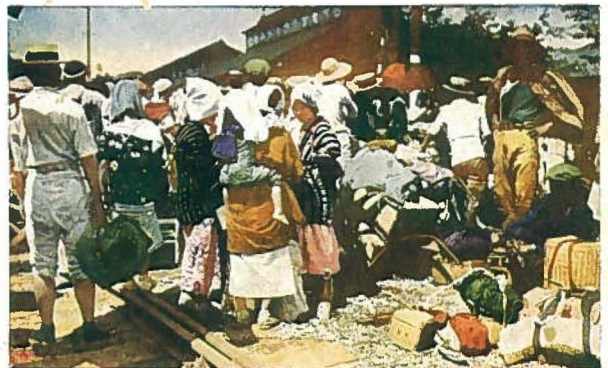
災火大の田舎るて見りよ上野神楽、早稲大東期（日一月九年二十正大）

九段から見た神田方面の大火災



民難題の崩宮跡後麻服被所本（所設中東大震一八年九二十正大）

本所被服廠跡地に避難した群衆



大正12年1月、関東大震災、田端駅周辺の避難民

田端駅周辺の避難民